

☆☆文庫あれこれ☆☆

◆幼い子どもでも、お話をたっぷり聴いていると、たくさんのことばを知ります。美しいことば、楽しいことば。そして、ことばのつながりを通してびっくりするような名文を絶妙なタイミングでしゃべります。耳から聴いた文章を深く心にしみ込ませ、知らず知らずに復唱し、イメージを自らつくれるようになっているのです。◆短い詩を親子でおぼえてキャッチボールのように交互に言い合う。ことばのリズムと感性が養われます。◆これらは4人育てた楽しい実感です。◆本の紹介のコーナーでも触れましたが、読書好きは文章もお上手ですね。◆文庫用にクリスマス・ツリーを購入しました。生木にしようかずいぶん迷ったのですが、解体式のものにしました。、少しづつオーナメントを増やしていこうと思います。来年からは、子どもさんに文庫へのクリスマスプレゼントとして飾りを作ってきてもらおうかしら、なんて考えています。楽しんで作ってくれるかしら?◆先日友人の文庫を訪問しました。なんと、児童書が、5000冊もあるそうです。沙羅の樹文庫はまだまだです。◆どなたか手先が器用な方、文庫のマスコットを考え、作ってくださいませんか。良いよ、と言う方、お声をおかけください。◆以前、『おはなしのろうそく』入用とおっしゃった方、取り寄せましたよ。また、『だから、子どもの本はおもしろい』(広瀬恒子著 新日本出版社)は長年親子読書会、家庭文庫をやってきて、親子読書地域文庫連絡協議会代表で、また日本子どもの本研究会で、たくさん児童書を読んできた著者の子どもの本の現況と道案内の書ですが、とても鋭くまたやさしく分かりやすい本です。『おはなし会のプログラム』(佐藤涼子著 編書房)もおはなしの語り方とおはなし会を盛り上げる方法がいっぱいです。この2冊85円で販売します。◆早いもので、12月もあと2週間。今年はこれで文庫納めです。

ご利用ありがとうございました。新年も、みなさまのお健やかなお顔にお会いできるのを楽しみにしています。(西村)

♥♥12月17日は!♥♥

「大人も子どももクリスマス」
プログラム(2:00~3:00)

おはなし会

- ★ からスのパンやさん(絵本)
- ★ こびととくつや
- ★ 七羽のカラス
- ★ 12の月のおくりもの
おかあさんとあそぼ!
- ★ わらべうた(うさぎ うさぎ・ららら、ぞうきん)

輪になってプレゼント交換

なにがあたりかな!!

おやつを食べて メリークリスマス!

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

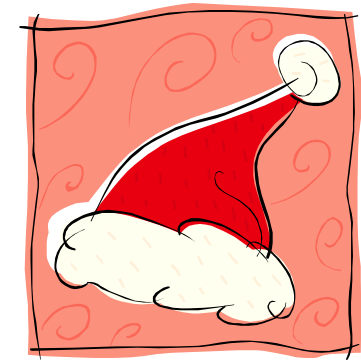
◆文庫の時間は土曜日は午後2時~5時
日曜日は午前10時~午後3時

◆2007年1月は、20、21(第3土日)。
◆2月も第3土日の17、18日です。

◆毎月日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。午前10:00~10:30です。

◆3月の終わりか4月の初め、「花見の頃のおはなし会」(文庫の開く日ではない日)を開く予定です。お花見はいつころがいいのでしょうか?

沙羅の樹文庫だより No. 4



あと1週間でクリスマス!
(今日は文庫のクリスマス)

それから、
もういくつ寝ると

お正月!

小さな仲間も大きな人たちも
思い思いの年の瀬から新年ですね。

沙羅の樹文庫をたくさん利用してくださって
ありがとうございました。

また、新しい年もいっぱい本を借りて、
楽しい心の旅をあげてください。

紹介・子どもの本 大人の本

★会員から会員へ・おすすめの一冊★

(文庫の棚の本をご紹介していただいております)

《絵本2冊》

『よあけ』(ユリー・シュルヴィッツ作絵/瀬田貞二
訳 福音館書店)

夜明け前の暗く静まりかえっている湖・・・・

空には月・・・・。動くものが何もありません。

深いブルーの色の中に耳を澄まします。やがて

どこからか風が吹いてきて 草の葉を揺らし、少しづつ
あらゆるものが目覚めていきます。

キャンプにきていたおじいさんは孫を起し、荷物を
まとめ 火をおこします。そして湖にボートを押
し出します。

暫くすると、朝日が昇り 山と湖が緑に染まります。

目がさめるようなこのページでは、朝日を全身に受
けているような暖かさを感じます。

内容は淡々としてひかえめなのに サア今日一日も頑
張るぞ!と思わせてくれる私にとって大切な一冊です。

『こんとあき』(林明子作絵 福音館書店)

あきと、きつねのぬいぐるみこんの心温まるお話です。
大きく成長したあきとは反対に、こんの腕はほころび
てしまいました。 さきゅう町に住むお婆ちゃん

に直してもらう為、電車に乗り会いに行きます。

5分の停車時間にこんがお弁当を買いにホームにでま
す(ちなみにあげどん弁当です)。しかし、電車

が動き出してもこんは戻ってきません・・・・。

又 砂丘を歩いていると突然犬が現れ、「ぱく!」こん
をくわえて砂丘を登って行ってしまいます。

ドキドキ ハラハラして やっと お婆ちゃんの胸に
抱かれ ホッとするんです。そして、次の次の

日 すっかり直してもらってお風呂に入ってきたいにな
ったこんとあきは家に帰ります。

是非 お子様どうぞ!

(大場弥生)

《詩人のエッセイ》

『一本の茎の上で』(茨木のり子著 筑摩書房)

自分や他人の「顔」を見て、そのみなもとに思いを
馳せた事がありますか? ツングース系・漢民族・イン
ド・ヨーロッパ・・・・風や鳥に運ばれてきた種子のよ
うに、「人間の顔は、一本の茎の上に咲き出た一瞬の花
である」と冒頭の文で茨木さんは語ります。

この一冊の中には、神話の皇子から田舎の媪・身近
な文人・韓国への旅で出会った人々まで、様々な人と
触れ合う中で生じた彼女の思いがやさしい言葉で静か
に重ねられています。「こうしましょう」とか「私の考
えを分かって」などという押し付けが一切無いのに、
気がつく文章の向こうに居る人達に思いを馳せてい
る・・・・もっとその人達の事を知りたいと思ってしまう。
「出会い」そのものを茨木さん御自身が大切にされ
ているのが伝染するのかもしれない。

その様な人や歌との巡り合いによって、自分の事・
身の周りの事を時々チラッと振り返ってみたりするの
も一興ではないでしょうか。

彼女の詩集を読んだ後と同様な、時間と空間をフッ
と越えてきた気分になる・・・・そんな散文集だと思
います。(森京子)

★ 今回の紹介者はおふたりとも詩人(い〜え、職業詩
人という意味でなく)です!文章の書き方、ことば、漢
字の使い方にも、各人の心の世界が垣間見られるよ
うな気がしました。伊豆にはすばらしい感性をお持ちの
方がいるのだなあと、今までお願いした方々も含めて
毎回感心しています。さすが読書好きの皆さんです。
突然お願いしても引き受けてくださりありがたく思っ
ています。★

少しまとまって大人の本が入ります!と宣伝
しても明日の屋にならないとどんな本が来
るのか不明です。新しいものではありません
が、寄贈者の見識は日ごろから買っているの
で、心配はしていないのですが、ちょっと小
難しかったりして? お楽しみに。

こんな<冬の絵本>が・・・。

外国の絵本:『ゆき』(バーニンガム作 富山房)

『ゆきだるまストーリー・ブック』(ブリッ
グズ 評論社) 『三つのお願い』(クリフトン作
あかね書房) 『ゆきがふりはじめたら』(ゲイ
シャイト一文/マティア絵 講談社) 『オー
ラのたび』(ドーレア夫妻作 福音館書店)

『しろいゆき あかるいゆき』(トレッセルト
作/デュポアザン絵 ブックローン出版) 『大
雪』(ヘンツ文/カリジュ絵 岩波書店) 『冬
のはなし』(クライドルフ文絵 福音館書店)

『ここは冬の北極』(ダンフィ文/A.J.ロビン
ソン絵 アスラン書房) 『急行「北極号」』(オ
ールズバーグ絵と文 あすなろ書房)

日本の絵本:『おしょうがつこびとのおはなし
』(まついのりこ作 童心社) 『たろのえりま
き』(きたむらえり作絵 福音館書店) 『この
ゆきだるま だーれ?』(岸田衞子作/山脇百
合子絵 福音館書店) 『14ひきのさむいふゆ』

(いわむらかずお作 童心社) 『たのしいふゆ
ごもり』(片山令子作/片山健絵 福音館書店)

『バムとケロのさむいあさ』(島田ゆか作絵
文溪堂) 『かさじぞう』(瀬田貞二再話/赤羽
末吉画 福音館書店)

教科書に出てくるおはなしの絵本:『ふき』(齊
藤隆介作/滝平二郎絵 岩崎書店) 『おにた
のぼうし』(あまんきみこ作/いわさきちひろ
絵 ポプラ社) 『手ぶくろを買いこ』(新美南
吉作/黒井健絵 偕成社) 『オホーツクの海
に生きる』(戸川文文/関屋敏隆版画 ポプラ
社) 『水仙月の四日』(宮沢賢治作/赤羽末吉
絵)

♥本棚を掘り起こせば、ほかにもまだまだあり
ますよ♥